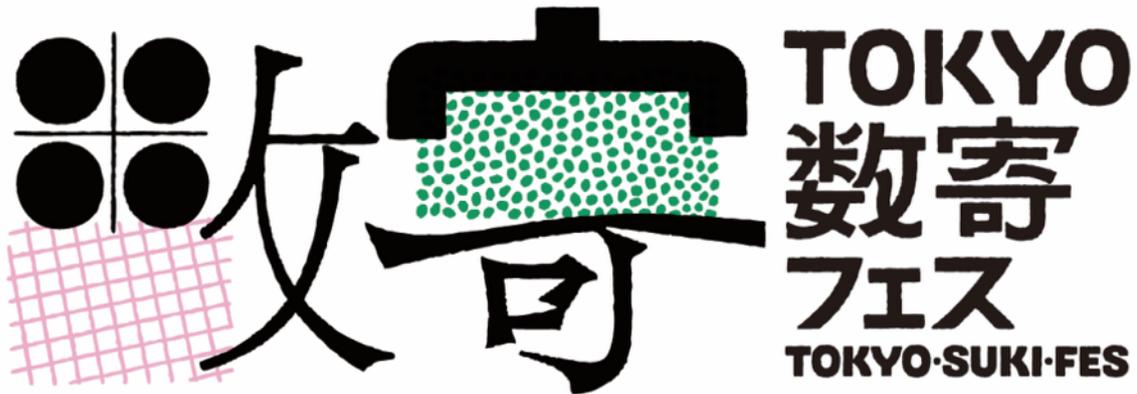


上野の杜にARTが集い、日本文化を世界に発信

上野「文化の杜」にて2016年10月21日(金)、22日(土)、23日(日)
日本文化と芸術のイベント『TOKYO 数寄フェス』開催のご案内 Vol.1

チームラボ、日比野克彦+島田清夏、大巻伸嗣ほか、アーティストによる
インスタレーションやトークショー開催！



様々な文化・芸術施設を構える上野「文化の杜」で、ARTが集い、日本文化を世界に発信するイベント『TOKYO 数寄フェス』がスタートします。

期間中、アート作品の展示やワークショップの開催に加え、一部の施設では夜間開館を実施。昼夜通して賑わう上野「文化の杜」で新たな「数寄」を見つけてください。

『TOKYO数寄フェス』開催概要

名称：TOKYO数寄フェス

期間：2016（平成28）年10月21日（金）、22日（土）、23日（日）

会場：上野恩賜公園各所（不忍池、噴水広場 他）、東京国立博物館、国立科学博物館、国立西洋美術館、東京都美術館、上野動物園、東京藝術大学

参加アーティスト：日比野克彦+島田清夏、橋本和幸、大巻伸嗣、チームラボ、鈴木太朗、諏訪内晶子、松下功、アンサンブル東風 ほか（順不同）

ディレクター：藤崎圭一郎（東京藝術大学デザイン科教授）

主催：上野「文化の杜」新構想実行委員会
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

協賛：株式会社伊藤園

協力：東京藝術大学演奏芸術センター
松坂屋上野店

*平成28年度 文化庁 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

*平成28年度 台東区 上野「文化の杜」新構想事業



公式ホームページ：<http://sukifes.tokyo/>

公式Facebook：<https://www.facebook.com/sukifes.tokyo/>

MAP



『TOKYO数寄フェス』について

1876（明治9）年5月に日本初の公園として上野恩賜公園^{おんし}が開園して以来、博物館、美術館、芸術大学、動物園、音楽ホールなど多くの重要な文化施設が一つの公園一帯に集まり、世界でも類を見ない文化芸術拠点が集中するエリアとして発展してきた上野。その歴史的資源と文化資源の宝庫である上野恩賜公園エリアに関わりのある各機関・団体が相互に協力し、“上野「文化の杜」”という連携組織を作り、日本文化と芸術を国内外へ発信する様々なプロジェクトを展開しています。その活動の一環として、『TOKYO数寄フェス』を開催いたします。

近代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心が、茶の湯の文化を通して日本の文化芸術の精神を紹介した『茶の本』の思想を背景とし、上野恩賜公園敷地内に広がる様々な文化施設を舞台に、天心が同書で語った《数寄》ということばを軸にアート作品やワークショップ、コンサートを展開。日本や東京を「数寄（＝好き）」になるコンテンツが上野「文化の杜」に広がります。

会期内実施イベント概要

【アート】

■日比野克彦+島田清夏「不忍池ファイヤーアート 和火・茶火^{わひ・さび}」

＜不忍池の水面に蓮の花が咲き誇るファイヤーアート＞

10月21日（金）18:30～（約15分） @不忍池（ボート池）

静寂の池に咲く侘び寂びの花火。夏の夜空を彩る花火とは異なる火の花が不忍池に咲きます。都会の中に潜む不忍の闇を彩るファイヤーアート和火・茶火を目撃してください。

■大巻伸嗣「Memorial Rebirth」

＜上野の杜に舞うシャボン玉アート＞

10月21日（金）、22日（土）、23日（日）1日3回 @噴水広場東側

杜の日常を異化する無数のシャボン玉たち。何気なく見過ごされてきた風景と土地に紡がれてきた歴史が観客たちのストーリーと交錯する瞬間、溶け合う世界の新しい興奮が訪れます。

■鈴木太朗「ミナモミラー」

＜不忍池の水面に映り込む光の軌跡で新たな池の表情を作り出すアート＞

10月21日（金）、22日（土）、23日（日）日没後 @不忍池（ボート池）

*10月21日（金）のみ、池中央のオブジェ無しでの展示となります。

不忍池をキャンバスにたとえ、風の流れによって時間とともに変化する、水面にたゆたう反射光を楽しむ作品です。不忍のボート池全周、池に浮遊するオブジェを淡く柔らかい光が囲みます。現実の世界と水面に映し出された世界を境界をなくしひとつにします。虫の声を聴きながら、幻想的な世界をお楽しみください。

■チームラボ「チームラボボール」

＜清水観音堂から弁天堂へつながる光のボールアート＞

10月21日（金）、22日（土）、23日（日）日没後 @清水観音堂～弁天堂(不忍池)

鮮やかな光の演出で知られるチームラボ。清水観音堂から不忍弁天堂への道へと続くボールに触ると、光の色が変わり音色が響きます。

■橋本和幸「ITO EN ティーテイスターフォレスト」

＜伊藤園のティーテイスターによる新たなお茶のカタチを提案する空間アート＞

10月21日（金）、22日（土）、23日（日）10:00～18:00 @噴水広場

伊藤園のお茶のスペシャリスト「ティーテイスター」が様々な種類のお茶を振舞いながら、お茶の楽しみ方や日本茶の魅力を幅広くご紹介します。また、爽快に切り取られた斬新な空間と、東京藝術大学の学生が製作したオリジナルの茶器がお茶の新しいカタチを彩ります。

■藝祭御輿

＜2016年度の藝祭（東京藝術大学の学園祭）で学生が制作したお御輿の優秀作5基を展示＞

10月21日（金）、22日（土）、23日（日）終日 @噴水広場および袴腰広場

東京藝術大学の学園祭である藝祭で展示された巨大なお御輿が上野の杜を震撼させます。本年度学生によって制作された優秀作5基（ゴリラ・蟹・桃太郎・ウミガメ・猪鹿蝶）を展示します。

【コンサート・パフォーミングアーツ】

■国立西洋美術館・東京藝術大学共催

東京藝術大学演奏芸術センター特別講座「美を語る」（仮称）

10月21日（金）19:00（開場）～20:30

第1部:対談 19:20～ @国立西洋美術館地下2階講堂

第2部:コンサート 20:00～ @国立西洋美術館 企画展示室前ロビー

定員：100名 事前申し込み制（定員になり次第締め切り） *クラーナハ展の観覧券提示が必要

諏訪内晶子(Violin / 東京藝術大学客員教授)・馬淵明子(国立西洋美術館長)

コーディネーター：松下功（東京藝術大学副学長）

世界的なヴァイオリニスト諏訪内晶子氏と馬淵明子国立西洋美術館長によるトークと演奏をお届けします。音楽と美術が融合する贅沢な夢のひとつを。

■藝大プロジェクト2016「サティとその時代」～世紀末からベル・エポックへ～

第3回「サティとピアノ…そして、言葉」レクチャー&コンサート

10月22日(土) 14:00~17:00 @東京藝術大学奏楽堂

入場料:3000円

レクチャー:小沼純一(早稲田大学教授)

ピアノ:高橋アキ、鈴木真貴子 ほか

奇抜なタイトルや人をくった態度で有名なサティ。彼は楽譜に通常の音楽用語とは全く異なる不思議な言葉を書き込んでいます。サティ演奏の第一人者、高橋アキ氏をお迎えして、サティの言葉に注目しながら、彼のピアノ曲の数々をご紹介します。

■ル・コルビュジエに捧げる音楽の贈りもの ~サティ・バッハ・パッヘルベル~

10月23日(日) 15:30(開場)~17:00

@国立西洋美術館地下2階講堂

定員:100名 事前申し込み制(定員になり次第締め切り) *クラナハ展の観覧券提示が必要

@国立西洋美術館前庭

定員:なし(ご自由にお聴きいただけます。)

アンサンブル東風、指揮:松下功(東京藝術大学副学長)

世界遺産に登録された国立西洋美術館の設計を担当したル・コルビュジエの事務所で1950年代にスタッフとして働いていた現代音楽家クセナキス。彼の楽曲を始め、ル・コルビュジエが活躍したパリの雰囲気伝えるサティの楽曲や国立西洋美術館で開催中のクラナハ展にあわせたドイツの作曲家の楽曲を演奏します。

【ワークショップ・シンポジウム・講演】

■「数寄」をテーマにアルバム辞典を作る

10月22日(土)、23日(日) 10:00~/14:00~(2回/日、各回3時間)

@国立科学博物館 ほか(集合場所:東京都美術館アートスタディールーム)

定員:20名/回

非対称、好き、空っぽ…「数寄」をテーマに自分の美意識を本にしてみましょう!各館展示や動物園、公園内を縦横無尽に撮影します。

東京都美術館をスタートし、東京藝術大学で冊子作りと講評会を行います。

■新聞紙で動物のしっぽを作るワークショップ

10月21日(金) 10:00~/11:00~/12:00~/13:00~/14:00~(全5回、各回20分)

10月23日(日) 12:30~/13:00~/13:30~/14:00~/14:30~/15:00~(全6回、各回20分)

参加費無料 @上野動物園

動物のしっぽを新聞紙で作ります。細部までしっかりと観察し鋭い観察眼を身につけましょう。作成したしっぽを付けて園内を自由に歩き回しましょう。23日は、「パンダの日」特別バージョンで開催します。

■ヨリミチ・ビジュツカン

10月21日(金)、22日(土) 18:00~20:00 @東京都美術館

定員:15名/日(対象:18歳以上)/参加費無料

ヨリミチ・ビジュツカンin「ゴッホとゴーギャン」展を開催。みんなで展覧会を鑑賞後は、カフェタイムでおしゃべりをする週末の夜の大人向けプログラムです。

【同時開催】

■ヘブンアーティストTOKYO

10月21日（金）、22日（土）、23日（日） @上野恩賜公園内10か所

上野恩賜公園内の各所で、約150組のヘブンアーティストと、海外から招いた2組のアーティストが様々なパフォーマンスを披露します。

■日本皐月協会主催 第14回錦秋展

10月21日（金）～24日（月） @竹の台広場（噴水広場）

■冬桜イルミネーション

2016年10月21日（金）～2017年1月15日（日） @桜並木

上記イベント概要は、変更される場合があります。

変更内容、タイムスケジュールや申込み方法等の詳細については『TOKYO数寄フェス』のホームページとプレスリリースvol.2でお知らせします。

『数寄』について

「数寄」はもともと「好き」の同意語で、風流・風雅に心を寄せること。

「^{すきしゃ}数寄者」とは、室町時代には和歌や連歌を好む人をさしたが、安土桃山時代にわび茶が流行し、茶人をさす言葉になります。その後、茶室を「^{すきや}数寄屋」と呼ぶようになり、「好き家」、「^{すきや}空家」ともあてられます。

上野を中心に日本の文化芸術を世界に発信した岡倉天心は『茶の本』のなかで「茶室」を、人それぞれ好みの詩趣を宿す「好き家」、美的感情を満たすために置くものの他は、一切の装飾を施さない「空家」、そして不完全を尊び故意に仕上げず、見る者の想像の働きでこれを完成させる「数寄屋」と解説しています。そこは富の誇示するような過剰な美はなく、簡素にして謙虚、静寂にして清潔、大名も庶民も分け隔てなく美を崇めることに集中できる仮の家であり、ありきたりの材料や均齊のとれていない配置に美を見出す自由な美意識が展開する場です。

そして、人の「好き」は人それぞれであり、「数寄」は人の数だけ存在します。

この『TOKYO数寄フェス』を通して、自由で広がりのある「数寄」という美意識を日本特有の伝統的な美意識として世界に広く伝えたいと考えています。

上野「文化の杜」新構想実行委員会について

上野恩賜公園に集まる日本屈指の文化教育・学術機関が保有する文化芸術資源の潜在的魅力をより顕在化させ、パリやロンドンといった世界最高水準の海外主要都市に匹敵する独自性を持った「芸術文化発信拠点 UENO」のシンボル化を目指すために結成された団体です。

上野恩賜公園に集う文化施設や学術機関、そして運営する行政等が一丸となった組織であり、各機関が越境的で柔軟な連携ができるよう広域の連合体を形成しています。

上野恩賜公園周辺の文化施設・学術機関が高度に連携し可能となった共通入場券「UENO WELCOME PASSPORT」の発行、「TOKYO数寄フェス」などのイベントを開催し、各文化施設が連携して文化芸術発信力を高めるとともに、今年度秋以降、各文化施設の協力をもとにレクチャーやガイドツアーなども行う予定です。芸術面のみならずソフトとハードの両面から魅力あるまちの基盤整備を行う活動を促進しています。

上野というまちが歴史的に保ち続けてきた伝統と革新のアイデンティティを再提示し、世界中のあらゆる人々が集う国際的な文化交流の拠点として、上野の魅力を世界に向けて強力に発信していきます。

ディレクターからのメッセージ

上野は、国立博物館もあれば寛永寺もあり、動物園やアメ横もある、聖も俗も、高尚さも猥雑さも入り乱れた雑多さが特色の街で、オフィス街の丸の内や、若い世代の情報発信地の渋谷や、サブカル秋葉原といった個性がはっきりした街とはやや違う傾向をもつ街です。上野公園一帯の文化施設が“上野「文化の杜」”として連携して事業を行うことで、上野という街に象徴的に顕れるアジア的なダイバーシティを日本の文化的価値と捉え直し、世界に発信していけるのではないかと考えたのが「数寄」ということばです。

岡倉天心は『茶の本』で茶室に貫く美学を「数寄屋」ということばのもつ多様な意味で解説しています。それは今読むと非常に現代の芸術とも深くつながっていることがよくわかります。過去の様式にとらわれないことはモダニズムですし、ありふれたものに価値を見出す姿勢は現代アートに通じますし、故意に作品を仕上げず完成は体験者のイマジネーションにゆだねるといふのはまさにインタクラクションアートです。茶室は茶を振る舞う空間です。その振る舞いの空間は、人の振る舞いや所作に意識を集中させ、環境の変化に対して五感を研ぎ澄ませるための装置でもありました。身体性と空間との関係という意味でも現代芸術に通底しています。また、数寄は数奇とも書きます。つまり奇数、半分に割れない非対称の美を重視する美意識でもあります。

ですから「数寄」ってどんな意味かと聞かれても、一言では答えられません。しかし、その曖昧で多様な意味にこそ、日本が育んできた文化的価値がぎっしりと詰め込まれているのです。「TOKYO数寄フェス」は、上野が日本文化の発信拠点として世界的に認知されることをめざす上野「文化の杜」の事業のひとつです。

このプログラムを契機に、「数寄」ということばが「おもてなし」や「わびさび」くらいメジャーなことばになってほしいと願っています。

藤崎圭一郎 / 東京藝術大学デザイン科教授

プレスに関するお問合せ先：HOW INC. 小池 / 中村

MAIL : pressrelease@how-pr.co.jp

TEL : 03-5414-6405 FAX : 03-5414-6406

イベントに関するお問合せ先：上野「文化の杜」新構想実行委員会内 TOKYO数寄フェス事務局

TEL : 03-5834-2396